1.「平成 30 年 3 月度 修習技術者研修会報告

2018.3.10
修習技術者支援委員会
委員　島崎　安隆

2.　研修セミナー概要

日　時　　平成 30 年 3 月 10 日(土)
　　10:00～18:10
主　催　　公益社団法人日本技術士会
　　修習技術者支援委員会
会　場　　機械振興会館　B2－1会議室
テーマ　キャリアプランセミナー
　　～技術士を目指すキャリアプランを作ろう～

3.　研修セミナースケジュール

キャリアプランセミナー 司会・進行	多田　委員
開会挨拶 講演 1「技術士に必要なキャリア」	10:05～10:30 石附　委員長
研修会スケジュール、 目的、課題説明	10:30～10:45 多田　委員
技術士になるためのキャリアプラン、レーダーチャートの作成	10:45～11:15 個人ワーク
グループ討議(1 回目)	11:15～11:45
講演 2:先輩技術士の事例紹介	11:45～12:00 講師:古賀　沙織氏　(資源工学部門)
昼食	12:00～13:00
グループ討議(2 回目)	13:00～14:25
講演 3:先輩技術士の事例紹介	14:25～14:45 講師:田中　仁美氏　(生物工学部門)
講演 4:先輩技術士の事例紹介	14:45～15:10 講師:宇都宮　陽一　氏(情報工学部門、総合技術監理部門)
グループ討議(3 回目)	15:10～16:40
講演 5:先輩技術士の事例紹介	16:40～17:10 講師:河野　千代氏　(建設部門)
キャリアプラン発表	17:10～18:10

4.　参加者

今回のセミナーは、技術士補、技術士第一次試験合格者及び JABEE 修了予定者(修了者を含む)を対象とした修習技術者研修会 24 名の参加があった。

参加者の技術部門は、電気電子、建設、機械、経営工学、情報工学等であった。参加者の居住地は、東京都、神奈川県、埼玉県の関東地区、および愛知県、大阪府、長野県等であった(図 1)。

また、参加の動機は修習の一環が多く、その他テーマ、講師に興味、仕事に役立つ他であった(図 2)。

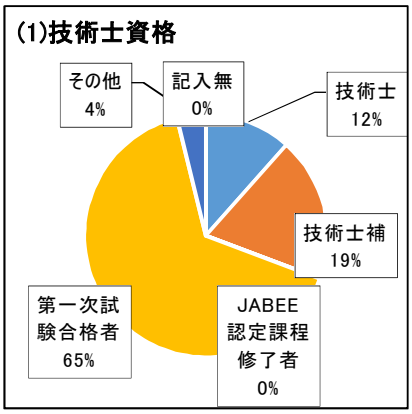

図 1　参加者ステータス

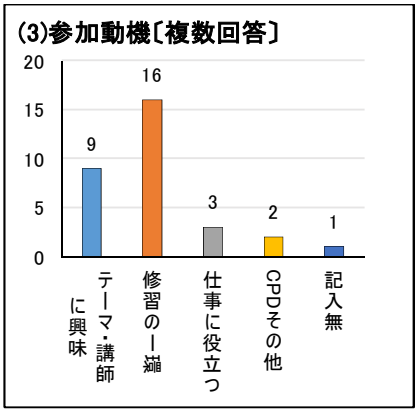

図 2　参加者動機(複数回答)

5.　研修会

修習技術者支援委員会　石附委員長より開会の挨拶と、技術士に必要なキャリアについての説明があった。

技術士に求められる能力・資質は多岐に渡り、とりわけ「専門技術能力」「業務遂行能力」「行動原則」の全てを理解・習得しなくてはならない。今回のキャリアアップセミナーを通して、目標とする技術士像とのギャップを知る機会としてもらいたいとの話があった。

続いて、研修会スケジュール、目的、課題説明の後、技術士になるためのキャリアプラン、レーダーチャートの作成を行った。ここでは、技術士 2 次試験を受験するまでの以下の 8 つの資質・能力（業務遂行能力）を向上させる。自分に合った具体的なキャリアプランを考えた。

①問題分析②解決策のデザインおよび開発③評価④ 技術活動のマネジメント⑤コミュニケーション⑥国際的な適応力⑦判断⑧リーダーシップ

それをもとにレーダーチャートを作成し、能力を可視化した。

◆グループ討議（1 回目）

写真 1　グループ討議の風景

このグループ討議では、まず、グループメンバーで今日の課題をどの様なタイムスケジュールで進めるかを計画立案して議論を進めた。（グループ討議、個人作業、休憩など）

◆　講演

「先輩技術士の事例紹介」

講師：古賀　沙織 氏 （資源工学部門）

・技術士受験について

1 次試験は学生時代に受験、合格した。

技術士の勉強は机に向かうだけではなく実務に近いもので、とても楽しく感じた。

入社時から 30 歳までに技術士になると宣言した。

評価データを各工場から吸い上げる必要がありコミュニケーションが課題であった。

・意識したこと

「技術の専門家」ではなく「技術力のあるコンサルタント」になること。多面的に判断して技術的な問題を解決する必要がある。

相手を理解しているか、その主張はフェアか常に自分に問いかけ、分からないことを放置しないということを心掛けた。

・合格後

合格後は信頼感、仕事の質に影響があった。

人生の目標の一つをクリアした。

チャレンジすることで得られるものは大きい。

机での勉強も大事だが、仕事をしながら技術士の資質を身につける。

技術士は人生の武器になると締めくくった。

写真 2　古賀講師　講演風景

◆グループ討議 （2 回目）

班替えの後、2 回目のグループ討議を行った。ここでは、自分の資質・能力の内、最もレベルの高い資質・能力について、なぜ、そのように習得及び向上ができたかというのを、1 名 1 分程度で、他のグループメンバーに紹介した。

次に、グループメンバーが共感できる不足している資質・能力の内、優先順位の高いものを選んで、その習得及び向上する具体的な方法を検討した。

◆　講演

「先輩技術士の事例紹介」

講師：田中　仁美 氏 （生物工学部門）

・自己紹介

食品メーカの研究者として働いている。

朝は 4 時に起き家事や筋トレを行い、夜まで仕事、育児、家事をこなし更に筋トレをしている、

・技術士取得まで

技術士になるまでに取り組んだ業務では、「技術業務のマネジメント」「問題分析」「判断」「コミュニケーション」「解決策のデザイン、開発」「評価」といった今回のキャリアアップセミナーに関連する項目であった。

技術士に足るレベルに達するには、まず技術士とは何かを考える必要がある。

多面的な視野を持ちながら PDCA サイクルを回し、常により高いレベルにステップアップさせるのが技術士である。日常業務で技術士になったつもりで考え行動することが重要である。

・技術士取得後

技術士になってからは、生物工学部会 幹事、青年技術士交流委員会 委員として活動している。多くの“出会えて良かった”と思える人に出会えた。人と人との出会いが、新しい可能性につながる。

・技術士として大切なこと

技術士として根本的に大切なことを 3 つ挙げる

(1)主体的に自分で考えて、動くこと

(2)相手の意見に耳を傾け、誠実に物事に取り組むこと

(3)相手の求めていることを察知し、正確に応えること

写真 3　田中講師　講演風景

◆　講演

「先輩技術士の事例紹介」

講師:　宇都宮　陽一　氏

（情報工学部門、総合技術監理部門）

・技術士を目指したきっかけ

学生時代の高専 5 年生に技術士を知り、就職後も技術士と接せる機会が多かった。

加えて、お客様であった方が技術士となっていたことから、自分も技術士を目指すようになった。

・技術者のキャリアプランニング

業務遂行能力の 8 項目を直接的技術力と俯瞰的技術力に分け、6w1h を考える。

インプットだけでなく発表会などでのアウトプットも意識した。日常業務での問題解決を積み重ねることが重要である。

専門的応用を必ずどこかで行っている。

・技術士になって感じたこと

自分と顧客の Win-Win だけでなく、社会を含めた Win-Win-Win を目指す必要がある。

・修習技術者へ

試験合格ではなく技術士になるという気持ちで修習に励んでもらいたい。

写真 4　宇都宮講師　講演風景

◆グループ討議 （3 回目）

再び班替え（最初の班と同じメンバー）した後、3 回目のグループ討議を行った。

ここでは、まず前のグループでの討議した内容を、1 名 1 分で説明した。

次に、グループメンバーが共感できる不足している資質・能力の内、優先順位の高いものを選んで、その習得及び向上する具体的な方法を検討した。

◆　講演

「先輩技術士の事例紹介」

講師:　河野　千代　氏　（建設部門）

・技術士を目指したきっかけ

技術士を目指したきっかけは、超一級の技術者集団に見た技に惚れたから。目指すは並ではなく超一級である。

・修習課題への取り組み方

建設現場の日常業務は修習課題の全てが詰まっている。工程管理、品質管理、人的資源管理などなど。さらにピンチはチャンスであり、考えて業務を行うチャンスと捉えた。仕事を押しつけられた時も自分の能力を示せるチャンスとプラスに捉えた。

・修習技術者へのエール

目標となる人物を見つけて、多くの接触を持ち自分にはない能力を学ぶ。人を見る目を持つことも、自分の成長のカギとなる。最後に資格試験に合格するための修習ではなく、優れた技術者である技術士となるための修習を積み重ねてもらいたい。

写真 5　河野講師　講演風景

◆キャリアプラン発表
各グループ単位で、各自のキャリアプランを、一人1分で発表した。
●C グループ
コミュニケーションが弱いため、相手が理解しているか普段の会議などでも意識する。家族に仕事の説明をする。
●D グループ
リーダーシップ、コミュニケーションが弱いため、日常業務での説明力を向上させる。8 つの項目を時期に分け PDCA を回す。問題分析が弱いため、他の人の事例を参考にする。自身のアウトプットを積極的に行う。
●E グループ
コミュニケーションが弱いため、全体像をわかりやすい言葉で伝えるように心がける。問題分析が弱いため、過去の業務の問題点を書き出す。修習の研修会で発表する。問題分析が弱いため、3 現主義による問題解決を行う。先輩の事例を参考にする。
●F グループ
コミュニケーションが弱いため、社内で自分の業務を説明する。リーダーシップが弱いため、継続的に研修会に参加する。コミュニケーションが弱いため、日々の業務で組織的なコミュニケーションを心がける。
●B グループ
コミュニケーションが弱いため、相手が考えていることを考える。誰にでもわかる資料を作る。コミュニケーションが弱いため、物事の背景を意識する。アウトプットを積極的に行う。研修会に継続参加する。
●A グループ
コミュニケーションが弱いため、足りないところを見つけて改善する。国際、コミュニケーションが弱いため、英会話教室に今月中に通う。例え上手になる。本を読む。評価が弱いため、相手の問題、課題を理解する。

写真 6　　グループ発表風景

◆講評 （野村副委員長）
　技術士になるための修習は、日々の仕事に結びついている。毎日の仕事が能力を高める絶好の場である。与えられた時間で相手に伝える訓練をぜひ続けてもらいたい。今日、講演いただいた講師 4 人の志望動機はそれぞれ違っていた。技術士となるための動機は極めて重要である。動機とキャリアプランは両輪であり、どちらが欠けてもいけない。そのため、しっかり考えてもらいたい。

写真 7　野村副委員長講評風景

6.　情報交流会

　場所を移して交流会が行われた。
今回の研修会では、複数回のグループ変更を行ったことから、参加者相互の関係が深くなった。そのため、交流会も非常に盛り上がった。
参加者が技術士となるにあたって不安に思っていることを声にだしアドバイスをもらっている場面もあった。講師の方も時間的制約で発表できなかったことを交流会の場で参加者に熱心に伝えていた。

以　上